

## まちのイメージ5

快適で利便性の高いまち（都市・生活基盤）

## 5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

### 「5-1 都市整備の行き届いたまちづくり」が目指すビジョン

都市化が進む中、人々の営みと自然との調和を重視した栄一の考えを大切にしながら、以下の取組を実践します。

周辺環境に調和した住みやすい市街地の形成や、安全で安心な水道水の安定的供給、環境衛生に取り組むとともに、深谷市の特色ある景観の形成や、水害対策などを推進します。

これにより、快適な住環境が形成され、誰もが暮らしやすい生活環境が整ったまちを実現します。

（基本施策・個別施策に  
関連する写真）  
※デザインの段階で調整

（基本施策・個別施策に  
関連する写真）  
※デザインの段階で調整

### 深谷市が目指すSDGsのゴール（都市分野）

 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に（環境、経済、社会）</p> <p>すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを（経済、社会）</p> <p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を（環境、経済、社会）</p> <p>気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう（環境）</p> <p>陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>

#### 市民や事業者のみなさんが取り組めること



- まちの景観や機能を維持していくため、まちの美化活動などに積極的に参加する。
- 水の安定供給のため、普段の生活から節水を心掛ける。



## 5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

5-1-1 良好な市街地・住環境形成の推進 (P. 142)

5-1-2 水の安定供給と下水処理の適正化 (P. 144)

5-1-3 地域の特色を生かした魅力ある景観形成 (P. 146)

5-1-4 治水対策の推進 (P. 148)

### 渋沢栄一が遺した功績や精神・考え方など（都市分野）

- ・ 栄一は、イギリスで提唱された都市と農村の魅力を併せ持つ「田園都市構想」を理想に、緑豊かな住宅都市の建設を目指し、大正7(1918)年、田園都市株式会社（現在の東急株式会社）を設立しました。
- ・ また、洗足<sup>せんぞくでんえんとし</sup>田園都市（現在の洗足地域）、多摩川台地区（現在の田園調布、玉川田園調布）を分譲した住宅地をつくり、都市部との交通の確保のため鉄道事業も営みました。大正12(1923)年の関東大震災では、東京や横浜で大火災が発生しましたが、田園都市の住宅での被害は一軒もなく、安全性が立証される形となり、郊外移転の風潮が生まれました。
- ・ 衛生環境の不備により、日本全土で感染症が流行した際、栄一の妻、千代も明治15(1882)年に流行したコレラによって42歳の若さで急逝しました。こうした自身の経験から、明治20(1887)年頃より、栄一は東京市の水道の改良に携わり、水道の衛生に配慮した東京水道会社創立の計画を立てました。その後、水道事業は東京市が行うことになり、淀橋浄水場が整備されるなど、東京の衛生環境は大きく改善しました。



## 5-1-1 良好な市街地・住環境形成の推進

### 5年後の 目指す姿

コンパクトで秩序のあるまちづくりのための都市基盤整備が進み、周辺環境に調和した住みやすい市街地が形成されています。

#### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
周辺環境と調和した土地利用がされていると思う市民の割合	62.7%	63.3%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれている」と答えた市民の割合であり、良好な市街地・住環境形成が推進されているかを測る指標です。		
全人口に対する居住誘導区域内に住んでいる人口の占める割合	31.59%	31.59%
市内全人口のうち、深谷市立地適正化計画において設定した居住誘導区域の人口の割合であり、深谷市が目指しているコンパクトシティの考え方に近づいているのかを測る指標です。		
深谷市営住宅長寿命化計画の進捗割合	0.0%	100.0%
市営住宅の質的向上及び安全性の確保を行い、長期的に利用できる住宅ストックを形成するため、計画的に事業が推進されているかを測る指標です。		

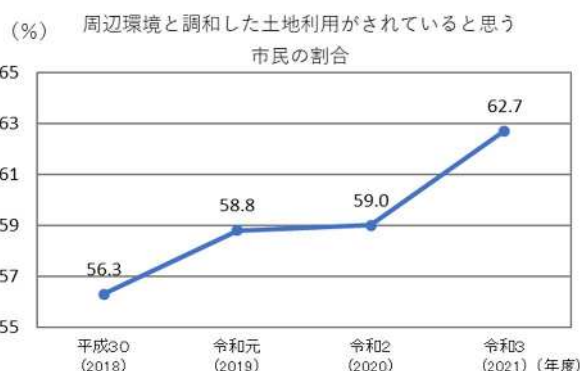
#### ◆施策を取り巻く社会状況

人口減少の進行とデジタル化の推進により、コンパクトシティという考え方だけでなく、スマートシティに代表されるネットワークやデータを活用したまちづくりの進め方・考え方が急速に広まっています。

公営住宅についてはセーフティネットなどとして重要な機能を担っていますが、老朽化が全国的に進んでおり、対応が求められているほか、景気の悪化などにより、住居の確保が困難となった方への対応も必要となっています。

#### ◆深谷市の現状と課題

1 コンパクトなまちづくりを進めるため、令和元(2019)年7月に「深谷市立地適正化計画」を策定しました。無秩序な住宅地形成による市街地の分散を防ぐため、都市基盤整備などによる良好な市街地の形成が求められています。また、中央土地区画整理事業については、主に地区中央部の「事業の見える化」を進め、令和3(2021)年12月に愛称「市役所通り」が開通し、市北部地域から深谷駅へのアクセス性が向上しました。さらに、国済寺土地区画整理事業については、都市計画道路原郷上



野台線から西側地区の整備が進み、住宅の建設及び沿道サービス施設などが立地しています。今後も、中央土地区画整理事業や国済寺土地区画整理事業などを推進する必要があります。

2 深谷市営住宅長寿命化計画に基づいた改修・改善を実施しています。今後も引き続き、市営住宅の計画的な改修・改善を進めることが求められています。

### ◆取組方針

#### 1 地域の特性に応じた市街地を形成し、住みやすく快適で良好な土地利用を行います

立地適正化計画において地域の特性に応じた生活利便施設を誘導・集約することにより、快適な生活環境を備えた市街地の形成を図るとともに、市街地の分散を防ぎ、居住の適正化を図ります。また、土地区画整理事業による都市基盤整備を引き続き行い、良好な居住環境の形成を促進します。

##### 【主な事業】

都市計画事務、中央土地区画整理事業、国済寺土地区画整理事業

#### 2 市営住宅を計画的に改修して適正に維持管理します

更新期を見据え老朽化した市営住宅の建物・設備を適正に維持管理していくため、建物の長寿命化などにより計画的に改修・改善を行います。また、入居者が安心して生活できる住宅を適切に供給します。

##### 【主な事業】

市営住宅管理事業

### ◆関連する個別計画

- ・ 深谷市都市計画マスタープラン（平成25(2013)年度～令和12(2030)年度を展望）
- ・ 深谷市立地適正化計画（令和元(2019)年度～令和22(2040)年度を展望）
- ・ 深谷市営住宅長寿命化計画（第2次）（令和3(2021)年度～令和12(2030)年度）

### ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール	
ターゲット	1, 3, a

## 5-1-2 水の安定供給と下水処理の適正化

### 5年後の 目指す姿

水道施設を適正に維持・更新し、安全で安心な水道水を安定的に供給するとともに、下水道施設を計画的に整備・更新し、生活環境が衛生的になることにより、市民が快適な生活を送っています。また、上下水道事業運営の健全化に取り組み、将来にわたって持続可能な運営を推進しています。

### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
水道管の耐震化率	18.85%	21.00%
水道管総延長のうち、耐震化された水道管延長の割合であり、安全で安心な水道水の安定的な供給が行われているかを測る指標です。		
汚水処理人口普及率	92.88%	100.00%
公共下水道と農業集落排水の使用ができる区域内の人口に、これら区域外の合併処理浄化槽による処理人口を足した値を、市内の総人口で除した割合であり、汚水処理対策が行われているかを測る指標です。		
経常収支比率(水道)	107.0%	100.0%
経常的な費用が収益によってどの程度賄えているかを示す指標であり、100%以上が健全とされています。		
経常収支比率(下水道)	102.9%	100.0%
経常的な費用が収益によってどの程度賄えているかを示す指標であり、100%以上が健全とされています。		

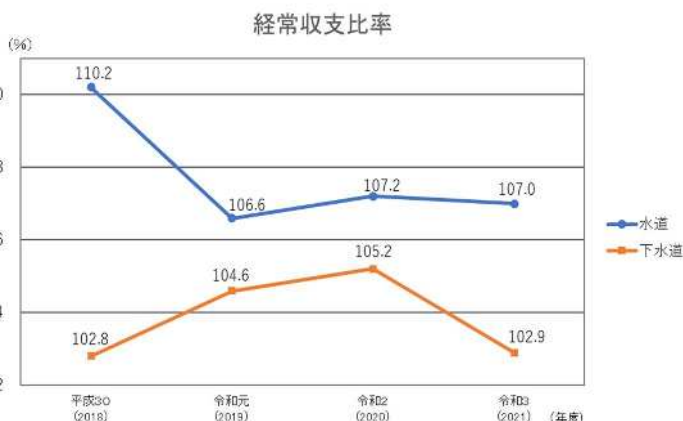
### ◆施策を取り巻く社会状況

上下水道事業については、施設の老朽化に伴う更新需要の増大及び人口減少などに伴う料金収入の減少により、事業を取り巻く環境は厳しさを増しており、さらなる経営の健全化及び施設運営の効率化への取組が必要となっています。また、激甚化・頻発化している災害に対応するため、施設の耐震化・老朽化対策が重要な課題となっています。

### ◆深谷市の現状と課題

1 水道事業においては、料金改定を実施するなど経営の健全化に努めています。あわせて、水道施設の適正な維持及び計画的な更新を実施していますが、水道管の耐震化率は低いため、一層の推進が求められています。今後も、水道施設の計画的な更新及び耐震化に取り組む必要があります。

2 下水道事業においては、公共下水道使用料改定及び農業集落排水使用料の従量制移行などにより収支は改善しています。あわせて、公共下水道施設の計画的な整備・更新及び農業集落排水処理施設の機能強化を実施しています。また、合併処理浄化槽への転換及び浄化槽の適正な維持管理を促進しています。今後も、



下水道の整備並びに計画的な施設の改築更新及び機能強化に取り組む必要があります。

3 上下水道事業の経常収支比率は100%を超えており、健全な経営が行われていますが、今後も、持続可能な上下水道事業運営を目指して、事業運営の健全化に取り組む必要があります。

#### ◆取組方針

### 1 安全で安心な水道水を安定的に供給します

安全で安心な水道水を安定的に供給するため、老朽管の更新や災害時に重要な役割を担う医療機関や防災拠点などへの水道管の耐震化を進めるとともに、浄配水場の更新・耐震化を計画的に推進します。また、引き続き水質検査の計画的な実施や既存井戸のメンテナンスなどにより水源の確保に努めます。

#### 【主な事業】

送配水施設管理事業、施設整備事業

### 2 下水道施設を適正に維持管理します

公共下水道汚水管路の整備や公共下水道施設及び農業集落排水処理施設の老朽化対策を計画的に推進します。また、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、既存のくみ取り便槽や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換及び浄化槽の適正な維持管理を促進します。

#### 【主な事業】

生活排水対策事業、公共下水道施設管理運営事業、農業集落排水施設管理運営事業

### 3 上下水道事業の健全運営を推進します

経営戦略などの個別計画に基づき、収支の均衡を保ちながら適切な投資を実施するとともに、個別計画の適切な進捗管理を実施することにより、健全経営を推進します。また、より効率的な施設運営にむけ、水道施設の統廃合の検討を進めるとともに、農業集落排水の公共下水道への接続及び浄化センターの統合を推進します。

#### 【主な事業】

水道企業会計管理事務、下水道企業会計管理事務

#### ◆関連する個別計画

- ・深谷市上下水道事業経営戦略（令和4（2022）年度～令和13（2031）年度）
- ・深谷市水道事業地域水道ビジョン（平成21（2009）年度～令和7（2025）年度）
- ・深谷市水道事業基本計画（平成21（2009）年度～令和7（2025）年度）
- ・深谷市生活排水処理基本計画（平成29（2017）年度～令和7（2025）年度）
- ・深谷市下水道ストックマネジメント計画（令和2（2020）年～令和16（2034）年度）
- ・深谷市農業集落排水施設最適整備構想（令和3（2021）年～令和42（2060）年度）

#### ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール	
ターゲット	1, 2, 3, 4

## 5-1-3 地域の特色を生かした魅力ある景観形成

### 5年後の 目指す姿

緑にあふれた自然環境が保全されているとともに、地域環境に配慮したまちなみが形成されています。また、特色ある景観が形成され、個性と魅力を感じられるまちになっています。

### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
身近に自然に親しめる環境があると思う市民の割合	80.7%	80.7%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「身近に自然に親しむことができる環境がある」と答えた市民の割合であり、自然にあふれたまちづくりが行われているかを測る指標です。		
市内に魅力的なまちなみ・景観があると思う市民の割合	52.1%	52.7%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内に魅力的なまち並みや景観がある」と答えた市民の割合であり、まち並みの景観形成が行われているかを測る指標です。		

### ◆施策を取り巻く社会状況

うるおいとやすらぎをもたらす緑の持つ多様な機能を生かした生活環境づくりを推進するため、緑に対するニーズの高まりへの対応が課題となっています。また、美しい地域づくりに向けて、その地域らしい特色ある景観形成に取り組む自治体が増えています。

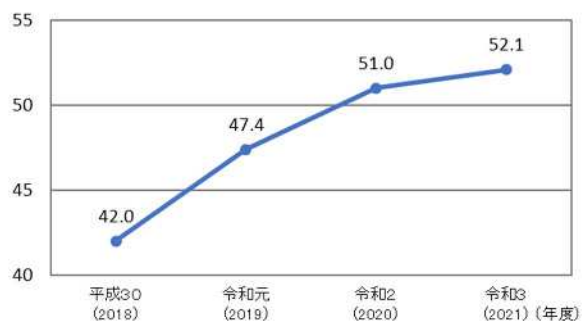
### ◆深谷市の現状と課題

1 かねつどうやま 鐘撞堂山の維持管理や公園施設の維持管理について重要性が増している中、効果的な事業展開を図ったことにより、「身近に自然に親しめる環境がある」という市民満足度は前期基本計画の目標値を超えています。一方で、公園には良好な緑地の確保だけでなく、レクリエーション機能や防災機能などさまざまな機能を備えることが求められ、施設の老朽化対策やリニューアルが課題となっています。

2 レンガのまちづくりは、郷土の偉人渋沢栄一らの功績を、新しいまちなみの形成を通じて顕彰していく目的で始まったものです。渋沢栄一が新一万円札の肖像に選ばれ、注目度がより高まっており、レンガを使用した「レンガ通り」を整備するなど、より一層戦略的に特色ある景観形成が図られるよう取り組む必要があります。

3 周辺環境との調和を図るため、景観条例に基づき、屋外広告物などを適切に管理しています。屋外広告物の未更新件数は年々減少していますが、今後も引き続き指導に努めていく必要があります。

(%) 市内に魅力的なまちなみ・景観があると思う市民の割合





## ◆取組方針

### 1 緑のあるまちづくりを行います

豊かな自然を保全するため、<sup>かねつきどうやま</sup>鐘撞堂山の森林などの公共的な緑地の維持管理を適切に行います。また、公園についても、市民にうるおいとやすらぎのある憩いの場が提供できるよう管理していくとともに、時代にあった機能を備えた魅力ある公園整備を推進します。

#### 【主な事業】

森林整備管理事業、公園維持管理事業、緑地保全管理事務、深谷市緑の基本計画推進事業、公園整備・改修事業

### 2 歴史的背景を生かした特色ある景観形成を推進します

市内に日本で最初の機械式レンガ工場が郷土の偉人渋沢栄一らによって設立されたことから「レンガのまちづくり」は始まりました。明治から大正にかけて多くの近代建築物にレンガが使用され近代化に大きな役割を果たしたという歴史的背景を踏まえ、より戦略的に推進することで「レンガのまち 深谷」という特色ある新しいまち並みの形成を図ります。

#### 【主な事業】

都市景観事務

### 3 景観意識を高める啓発を行います

多くの市民が市内の良い景色に気づき、感じるができるよう、景観に対する関心や意識の啓発を実施し、景観意識の醸成を図ることにより、まちの景観の維持創出につなげます。

#### 【主な事業】

都市景観事務

## ◆関連する個別計画

・深谷市緑の基本計画（平成22(2010)年度～令和11(2029)年度）

## ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール			
ターゲット	6	7	4

## 5-1-4 治水対策の推進

### 5年後の 目指す姿

河川改修や内水はん濫対策により、災害リスクが徐々に減少し、人々の水害に対する安心感が高まっています。

### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
市民の水害に対する安心度	78.6%	78.6%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「水害に対して安心した生活を送ることができている」と答えた市民の割合であり、治水対策が推進されているかを測る指標です。		
宅地など浸水箇所数	0棟	0棟
国土交通省水害統計調査における、台風などの豪雨により床上・床下浸水した被災家屋の棟数であり、治水対策が推進されているかを測る指標です。		

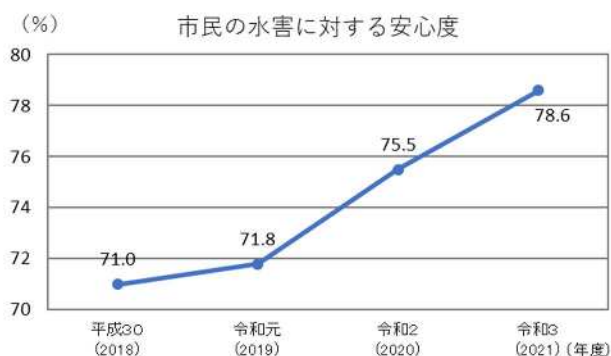
### ◆施策を取り巻く社会状況

近年、気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化に備え、これまでの河川管理者が主体となっていく治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる流域治水の取組が進められています。

### ◆深谷市の現状と課題

1 市内には利根川、荒川といった主要河川のほか、準用河川や普通河川、その他数多くの排水路が存在しており、災害発生の防止・軽減の観点から治水対策の推進が重要となっています。このため、排水路の改修、排水機場の更新、内水はん濫対策の検討など治水対策の強化を図っており、引き続き、治水対策を推進していく必要があります。

2 既存の河川や管理施設などについては、災害時に十分機能するよう維持管理しており、このため、大規模な河川からの溢水、内水はん濫や管理施設のトラブルの発生には至っていません。しかしながら、近年の気候変動に伴う水害の激甚化・頻発化に備え、今後も適切な維持管理を行っていく必要があります。



## ◆取組方針

### 1 河川、排水路の改修や雨水調節池の整備を推進します

利根川や荒川といった主要河川については、沿川自治体とともに治水向上のための改修などの要望を適宜行い、市が管理する河川や排水路についても、機能維持、治水向上を図るための改修を推進します。また、新たな流域治水への取組として、内水はん濫対策を兼ねた雨水の一時貯留施設としての雨水調節池整備を推進します。

#### 【主な事業】

河川等整備管理事業

### 2 河川や管理施設などの適切な維持管理に取り組みます

深谷市が管理する河川や排水路が適切に管理され、その機能が十分に発揮できるよう日々適切な維持管理を行います。また、大雨による内水排除のための施設である排水機場についても、機能維持のための点検・整備のほか計画的な改修を行い、適切な維持管理を行います。

#### 【主な事業】

河川等整備管理事業、排水機場操作管理事業

## ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール		
ターゲット	5	1

## 5-2 交通アクセスの便利なまちづくり

### 「5-2 交通アクセスの便利なまちづくり」が目指すビジョン

社会インフラの整備などを通して、公益追及のため、人々の暮らしを豊かにすることを目指した第一の考えを大切にしながら、以下の取組を実践します。

利便性・安全性の向上のため、道路の計画的な整備を推進し、市内道路ネットワークの充実を図るとともに、公共交通ネットワークの維持や、交通安全意識の向上を目指します。

これにより、機能的で利便性の高い交通ネットワークが形成され、誰もが安心して快適に移動でき、活力のあるまちを実現します。

（基本施策・個別施策に関連する写真）  
※デザインの段階で調整

（基本施策・個別施策に関連する写真）  
※デザインの段階で調整

### 深谷市が目指すSDGsのゴール（生活基盤分野）

	<b>3 すべての人に健康と福祉を（社会）</b> あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する		<b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう（経済）</b> 強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
	<b>11 住み続けられるまちづくりを（経済、社会）</b> 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする		<b>13 気候変動に具体的な対策を（環境、経済、社会）</b> 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

市民や事業者のみなさんが取り組めること



- バスや鉄道などの公共交通の利用などを通じて、これからの地域の公共交通について自分たちで考えていく。
- 交通ルールを守るとともに、交通マナーの実践を心がける。



## 5-2 交通アクセスの便利なまちづくり

### 5-2-1 道路・交通環境整備の推進 (P.152)

### 5-2-2 公共交通の維持確保と交通安全の推進 (P.154)

(基本施策・個別施策に  
関連する写真)  
※デザインの段階で調整

(基本施策・個別施策に  
関連する写真)  
※デザインの段階で調整

## 渋沢栄一が遺した功績や精神・考え方など (生活基盤分野)

- ・ 生誕地の血洗島は、利根川の中瀬河岸による水運と中山道の街道により、江戸への利便性が高い場所にありました。また、栄一は、欧州視察を通して、近代国家には社会インフラの整備が必須と実感しました。
- ・ こうした自らの出身や経験から、鉄道・ガス・水道・電気などのインフラは、国民の暮らしを豊かにするために欠かせないものであると考え、多くの財閥が重工業に注力する中、栄一はインフラ事業にも多く携わり、「公益の追及」という観点から、これらの事業を利益化することに成功しました。
- ・ 栄一は、海運や陸運にも積極的に携わりました。日本郵船株式会社の取締役や相談役となったほか、さまざまな鉄道会社の設立や経営に携わり、日本鉄道（現在の東日本旅客鉄道）や東洋初となる東京の地下鉄道開発に貢献するなど、日本のインフラの整備に貢献しました。
- ・ 栄一が設立に関わった日本煉瓦製造株式会社は、深谷市上敷免に工場を設立し、深谷産の煉瓦は東京駅や日本銀行本店本館をはじめ、明治期の代表的建築物に使用されています。
- ・ 深谷駅はこうした縁から東京駅を模した駅舎となっており、「煉瓦のまち深谷」を表す特徴的な建築物となっています。



## 5-2-1 道路・交通環境整備の推進

### 5年後の 目指す姿

道路の計画的な整備により、市内道路ネットワークが充実し、利便性・安全性が向上しています。また、道路のパトロールや橋りょうの点検により、緊急性や必要性に応じた修繕が行われ、適切に維持管理されています。

### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
日常の道路利用に特に不便を感じていない市民の割合	48.7%	50.5%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはない」と答えた市民の割合であり、道路・交通環境の整備が推進されているかを測る指標です。		
道路・橋りょう維持管理上の事故件数	0件	0件
市が管理する道路における管理瑕疵により賠償責任保険の適応となった事故件数であり、道路施設の計画的な維持管理が行われているかを測る指標です。		
道路維持管理上の通報件数	1,561件	778件
1年間における市民からの道路維持に関する苦情件数であり、道路施設の計画的な維持管理が行われているかを測る指標です。		

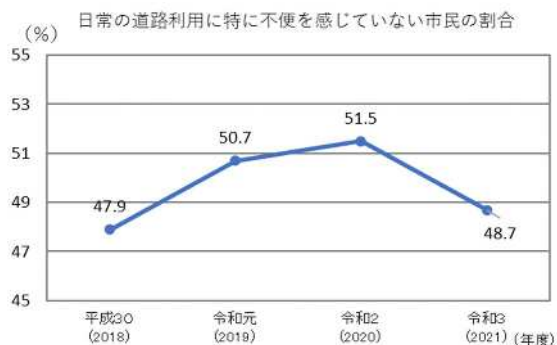
### ◆施策を取り巻く社会状況

高度成長期に建設された施設の老朽化に加え、近年の気候変動、大規模地震の発生リスクに対しても安定的に機能する道路ネットワークのあり方が問われています。また、人々の生活スタイルの変化を契機とした地域における交通量の増大など、さまざまな課題に対応した道路整備や維持管理の充実が求められています。

### ◆深谷市の現状と課題

1 市内の道路ネットワークを形成する上で重要な役割を果たす幹線道路については、継続的に整備を推進しています。また、市民のニーズを踏まえ、生活道路の整備も推進しています。今後も、市内の道路ネットワークの充実を図るとともに、安全性と利便性の高い生活道路の整備が必要となっています。

2 道路の老朽化が進んでおり、舗装や道路施設の破損は事故を引き起こすおそれがあります。年々、道路の損傷などについては、道路パトロールによる発見や市民からの通報が増加しており、修繕により対応しています。今後も、予防保全型の計画的な修繕など、費用の縮減を図りながら、安全な道路環境を整備する必要があります。



3 橋りょうの老朽化が進んでおり、定期的な点検・修繕を行っています。今後も点検結果に基づく計画的な修繕を進めることにより、長寿命化と安全性の確保が必要となっています。

#### ◆取組方針

### 1 安全で便利な道路の整備を行います

市内の道路ネットワークの充実を図るため、引き続き、幹線道路の整備を計画的に推進します。また、日常生活の利便性・安全性を高めるため、今後も、緊急性や必要性を考慮し、生活道路の効果的な整備を推進します。

#### 【主な事業】

生活道路整備事業、都市計画道路整備事業、幹線道路整備事業

### 2 安全で快適な道路環境を確保します

道路の適切な管理に当たり破損箇所などは早期に発見するため、道路パトロールの充実・強化を図り、道路の破損などによる事故減少のため、通報・要望などを受けた際には、修繕などの迅速な対応を図ります。また、路線全体の修繕については舗裝修繕計画を軸としながら計画的に進め、快適性を確保します。

#### 【主な事業】

道路維持管理事業

### 3 橋りょうの安全性を確保します

今後も継続的に定期点検を実施し、得られた結果を長寿命化修繕計画に反映させながら、計画に基づいた修繕などを進めていくことで、安全性の確保を図ります。

#### 【主な事業】

橋りょう維持管理事業

#### ◆関連する個別計画

- ・ 深谷市舗裝修繕計画（令和4(2022)年度～令和23(2041)年度）
- ・ 深谷市橋梁長寿命化修繕計画（令和2(2020)年度～令和12(2030)年度）

#### ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール			
ターゲット	1	a	1

## 5-2-2 公共交通の維持確保と交通安全の推進

### 5年後の 目指す姿

市内の公共交通ネットワークの維持向上により、市内外とのアクセスがしやすいまちへ進んでいます。また、市民の交通安全に対する意識が向上し交通事故の少ないまちとなっています。子どもたちも安全に通学路を登下校しています。

### ◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
交通事故死傷者数	592件	474件
1年間の市内における交通事故死傷者数であり、交通安全対策が充実しているかを測る指標です。		
通学路整備計画実施率	100.0%	100.0%
第5期埼玉県通学路整備計画における実施状況であり、通学路の交通安全対策が充実しているかを測る指標です。		
市内の公共交通機関の利便性（時間、本数、路線、サービス）に不便を感じている市民の割合	49.4%	49.4%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「時間、本数、路線、サービスなど、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じている」と答えた市民の割合であり、公共交通の維持確保の取組が行われているかを測る指標です。		

### ◆施策を取り巻く社会状況

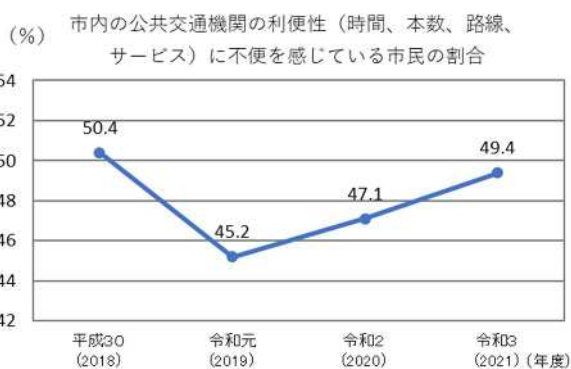
高齢化が進む中、公共交通は人々にとって身近な交通手段として、なくてはならないものになる一方、人口減少などに伴う利用者の減少により、公共交通の維持は困難さを増す中、就業形態をはじめとした人々の生活スタイルの変化によって、交通利用へのニーズは多様化しています。また、全国各地で通学路における悲惨な事故が多発しており、登下校中の児童・生徒の安全・確保が課題になっています。

### ◆深谷市の現状と課題

1 深谷市のコミュニティバスについては令和2(2020)年度に定時定路線を、また、令和4(2022)年度にはデマンドバスの運行の見直しを行い、サービス提供の向上を図っています。

今後、高齢化や人口減少がさらに進む中、公共交通機関と連携し、公共交通の利便性の向上を図っていくことが求められています。

2 通学路の整備や、生活道路における交通安全施設などの整備については、地域住民や学校関係者の意見を踏まえて整備していますが、今後も計画





的に整備を推進し、子どもや高齢者を交通事故から守っていく必要があります。

3 警察署などと連携し、市内公立小中学校で毎年交通安全教室を行うほか、高齢者を対象とした各種講習会などを実施して、交通安全の意識を高めています。今後も、交通安全キャンペーンなどを通じ、交通安全意識の啓発につとめる必要があります。

#### ◆取組方針

### 1 公共交通の維持確保に取り組みます

市内の公共交通ネットワークの維持確保を図るとともに、利用実態に即した効果的で効率的な運行ルートの設定など、持続可能な公共交通体制の構築に取り組みます。また、岡部駅の橋上駅舎化など鉄道駅の利便性のさらなる向上を図ります。

#### 【主な事業】

コミュニティバス運行事業、岡部駅橋上駅舎化事業、交通政策企画調整事務

### 2 交通安全施設の整備、補修を行い安全な通学路を確保します

通学路の整備については、埼玉県通学路整備計画に基づき路面標示の設置や修繕などを行います。また、見通しの悪い交差点や、夜間の暗さから危険と思われる箇所には、道路照明灯、道路反射鏡を設置し、安全性の向上を図ります。

#### 【主な事業】

交通安全施設整備管理事業

### 3 交通安全の意識を高めます

交通安全教室を実施し、交通安全意識の向上を図るとともに、交通事故防止運動期間を設け交通安全キャンペーンなどで、交通安全意識の啓発に取り組みます。

#### 【主な事業】

交通安全啓発事業

#### ◆関連する個別計画

- ・深谷市地域公共交通網形成計画（令和元(2019)年度～令和5(2023)年度）
- ・深谷市交通安全計画（令和4(2022)年度～令和8(2026)年度）
- ・埼玉県通学路整備計画（令和4(2022)年度～令和8(2026)年度）

#### ◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール		
ターゲット	6	2

